

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 注意**
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

- メタルスズり、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズり、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタ網など)と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

- 注意**
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
 - 作業は 2 人以上でおこなうこと
レンジフードは 34kg の重さがあります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願

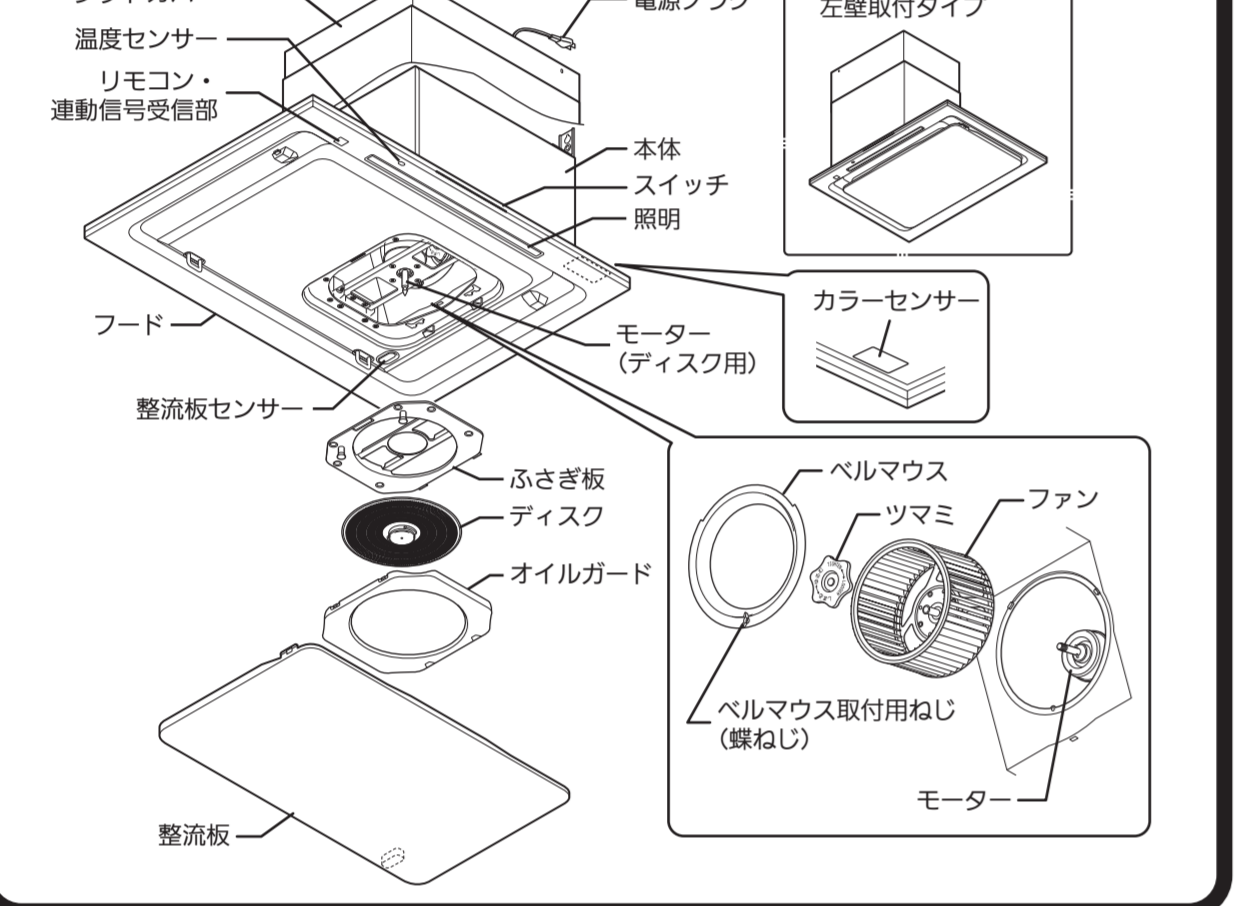
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通過抵抗は 400mm²/h² 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³ 程度の空気を入口を設けてください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード取付面の補強部、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座ねじは 45mm の長さのものと同軸にありますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので、不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください(目安: 勾配 1/100 ~ 1/50 程度)。雨水の滲入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。レンジフードへの通電が遮断されず、お手入れ時等の表示を正しくお知らせできません。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 風量おまかせ運転(風量自動切替)機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

取り付け前の調査と準備

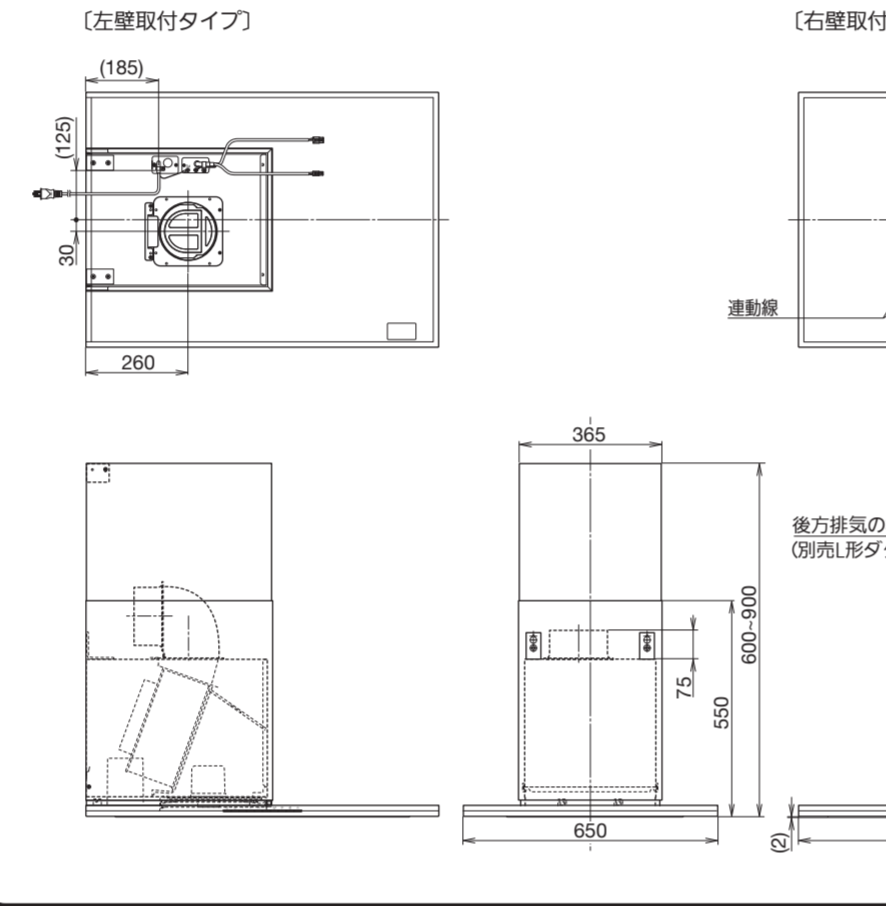
- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- 注意**
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタ網など)と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

- 1 取付面の強度確認**
製品を支える強さが必要です。
製品質量 34kg
■ 板厚の質量(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
● 板厚が 20mm 以下の場合には板に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。
- 2 別売部品の準備**
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 3 標準取付寸法**
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品前面の下端まで 80cm 以上です。
※ 火災予防対策として、グリッドフィルター(ディスク)の下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となります。
- 4 電源コンセント・ブレーカー**
電源コンセント・ブレーカーは専用のものをご設置してください。(交流・単相 100V)コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。
お願い
・必ずアース工事(D 極接地工事)をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

- 座付ねじ(φ 5.1 × 45) 10 本
本体、本体取付金具およびダクトカバー吊り金具の取り付けに使用します。
- 化粧ねじ(M4 × 8) 2 本
ダクトカバー内側スライド部の固定に使用します。
- ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。
- 本体取付枠 1 個
本体の取り付けに使います。
- 整流板 1 個
本体に取り付けて使います。
- ダクトカバー 1 個
ダクト取付部をカバーします。
- ダクトカバー吊り金具 2 個
ダクトカバーの取り付けに使います。

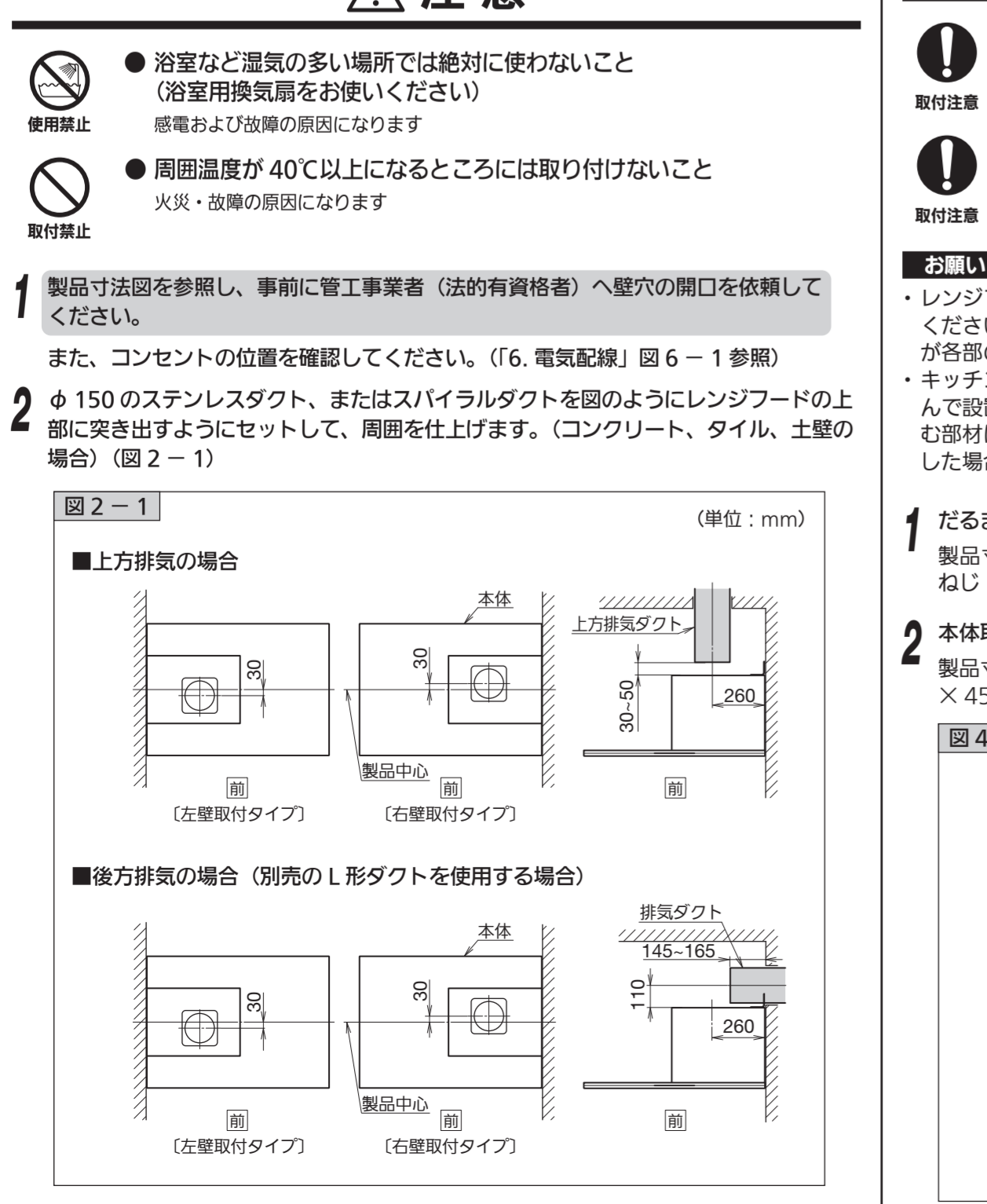
取り付けかた

1. 付属品の確認

- 注意**
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 付属品を確認します。
梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上掲の付属品一覧により不足がないか確認してください。
- お願い**
- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破壊防止のため、「8. 整流板の取り付け」までははずさないでください。(図 1-1)
 - 床で作業する場合は、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
 - 取付作業の際はキズ・破壊のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

- 警告**
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - メタルスズり、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズり、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- 注意**
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります



3. 排気用部品の準備

- ※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。
- 上方排気の場合(図 3-1)
- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
 - 2) 本体に付いている取付ねじ 2 本を取りはずし、付属品の排気口を差込部に差し込み、取付ねじで取り付けます。
※ 取付方向は右図を参照してください。
- 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)(図 3-2)
- 排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ(M4 × 8) 4 本で L 形ダクトに取り付けてください。
※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。(「5. ダクトと排気用部品の接続」参照)
- お願い**
L 形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開閉方向に注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異音の原因になります。
- 正しい接続例** **誤った接続例**

4. 本体の取り付け

- 注意**
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- お願い**
- レンジフードの前および左右方向の水平を確認にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
 - キッチンパネルの上部端部をレンジフード下部部面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。
- 1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)**
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
 - 2 本体取付枠を取り付けます。(図 4-1)**
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) 2 本で本体取付枠を固定します。
- 図 4-1** (単位: mm)

5. ダクトと排気用部品の接続

- 3 本体を引っ掛けます。(図 4-2)**
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(①)、本体背面の溝を本体取付枠に引っ掛けます(②)。
お願い
上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
- 4 本体を固定します。(図 4-3)**
1) だるま穴下のφ 9 穴(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) をしっかりと締め付けます(①)。
2) だるま穴の座付ねじ(φ 5.1 × 45) をしっかりと締め付けます(②)。
- 5.1** ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらぬように図を参照してドリリングタッピンねじを使用範囲内に固定してください。(図 5-1)
- 5-2** 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図 5-2)
- 5-3** 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)
1) 排気口を取り付けます。(図 5-3)
本体排気口取付位置に取り付けられている取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。
- 5-4** 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図 5-3)
■ 排気口設置面の漏風確認のお願い(図 5-4)
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(製品天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調剤品)で漏風防止処置をおこなってください。

6. 電気配線

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- お願い**
- 電源は専用のコンセント(2 極接地極付差込接続器 15A、125V)およびブレーカーをおこなってください。
 - 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
 - コンセントには電源コードの長さや考慮し、右図の斜線範囲内に設置してください(図 6-1)。
 - 必ずアース工事(D 極接地工事)をしてください。
- 図 6-1** (単位: mm)

7. ダクトカバーの取り付け

- 1 取付位置を確認します。**
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。(図 7-1)
 - 2 ダクトカバー吊り金具を取り付けます。(図 7-2)**
ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) 4 本で取り付けます。
※ レンジフードのセンサーに合わせて注意しながら取り付けてください。
 - 3 ダクトカバーを取り付けます。**
1) ダクトカバーを壁際まで持っていき、引掛ねじの手前でフードの溝に滑りこませます。
スライドさせながら、引掛ねじを切り欠きにはめ込みます。(図 7-3)
※ 引掛ねじが切り欠きに確実にはめ込まれていることを確認してください。
 - 2) ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4 × 8) 2 本でダクトカバー吊り金具に固定します。(図 7-4)**
- 図 7-1** (単位: mm)
- 図 7-2** (単位: mm)
- 図 7-3**
- 図 7-4**

取り付けかたは裏面に続きます。

